

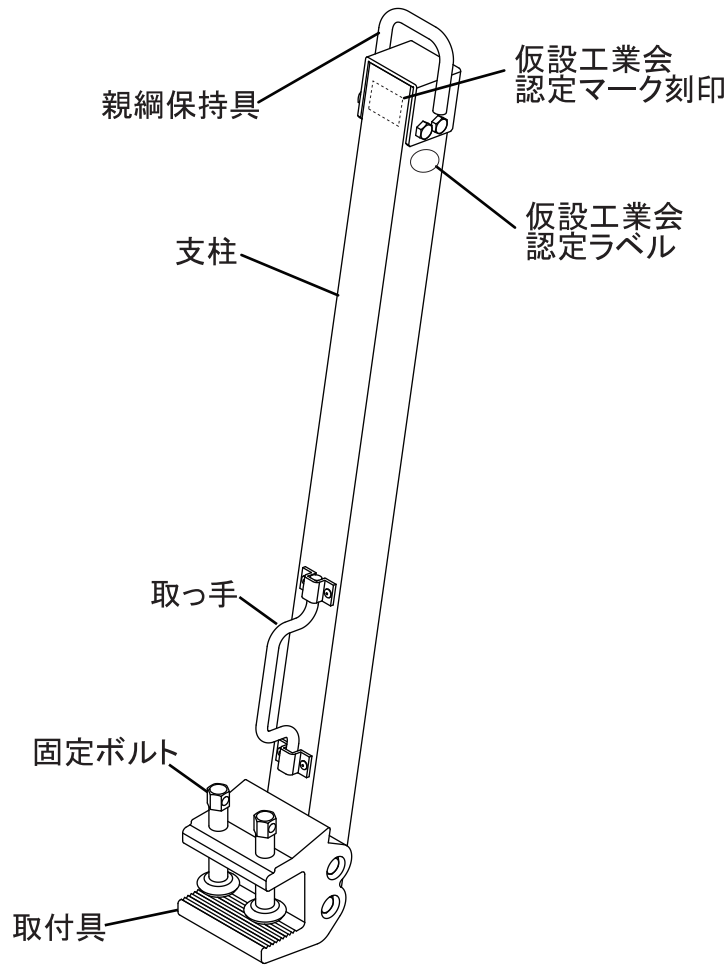
# アルミ合金製 親綱支柱 1種 (兼用)

## SPB 型

### 取扱説明書

このたびは本製品を、お買いあげいただきましてありがとうございます。この取扱説明書は、本製品の使いかたと使用上の注意事項について記載しています。ご使用前には必ず、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容に当たって正しくご使用ください。また、お読みになった後も、この取扱説明書をすぐに取り出せる場所へ大切に保存してください。

- この取扱説明書に書かれた使いかた以外の使用方法や注意事項を守らずに、事故を起こされても責任を負いかねますのでご了承ください。
- この取扱説明書をよくお読みいただき、「一般社団法人 仮設工業会」(以下、仮設工業会という)の「親綱支柱・支柱用親綱・緊張器等の使用基準」に準じて使用してください。



### 表示マークについて

取扱説明書に記載されている ⚠ マーク付きの説明は、安全上、特に重要な項目ですから、必ずお守りください。

#### ⚠ 危険

記載されている内容を守らなければ、死亡や重大な事故が生じる危険が極めて大きいことを示します。

<絵表示について>  
警告表示の要点が一目で理解できるように、取扱説明書の中で絵表示を使用しています。絵表示には、下記の意味があります。

このマークは、禁止 (してはいけないこと) を示します。

このマークは、強制 (必ずすること) を示します。

## 安全のために、必ず守っていただきたいこと

**⚠ 危険** 親綱支柱としての用途以外の使いかたをしないでください。

本製品は、高所作業に用いる墜落制止用器具を掛ける親綱を張るための支柱です。使いかたを誤ったり、用途以外の使いかたをしますと、破損による重大な事故の恐れがあります。

**⚠ 危険** 親綱支柱を加工や改造しないでください。

重大な事故の恐れがあります。

**⚠ 危険** 落下事故に遭ったり、異常な衝撃荷重を受けた親綱支柱は使わないでください。

落下事故や異常な衝撃荷重を受けた親綱支柱は、見た目に変形がなくても強度が落ちていきますので、使わないでください。

**⚠ 危険** 親綱は、親綱保持具に取付けてください。

親綱保持具以外の箇所に、親綱のフックや緊張器を取付けると破損の原因になります。

**⚠ 危険** 変形した親綱支柱を使わないでください。

製品はアルミ製です。曲がったアルミ材は曲げなおすと強度がいちじるしく低下します。

**⚠ 危険** 最大使用質量 100kg 以下で使用してください。

100kg を超えて使用すると、破損による重大な事故の恐れがあります。

**⚠ 危険** 持ち運ぶときは、引きずったり、投げたり、乱暴に扱わないでください。

乱暴に扱うと、変形や凹み・破損の原因になります。

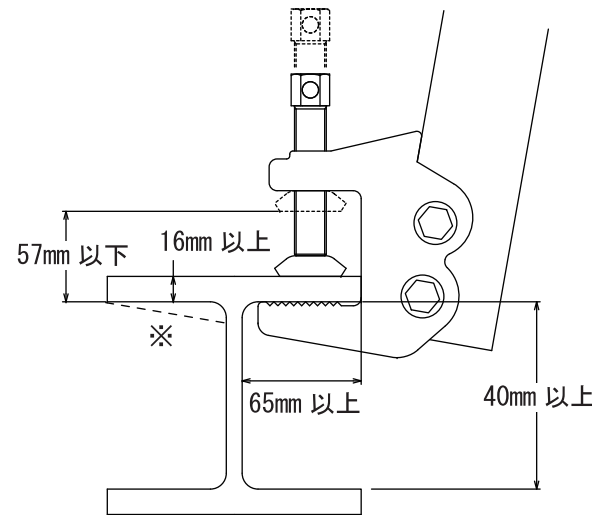
**⚠ 危険** 取付けるときや持ち運ぶときは配電線に注意してください。

本製品は電気を通します。配電線に触れると感電し、重大な事故につながる恐れがあります。

## 使用方法

### ● 取付可能なもの

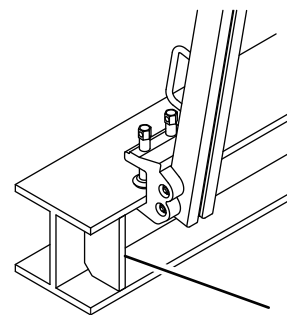
下図寸法の H 形鋼、又はビルド H 形鋼に取付けてください。



※ 取付部が、点線のようにテーパになっているミゾ形鋼や、I 形鋼には取付ないでください。

### ● 取付の場所

下図のように、出来るだけスチフナやガゼットプレートの近くに取付けてください。

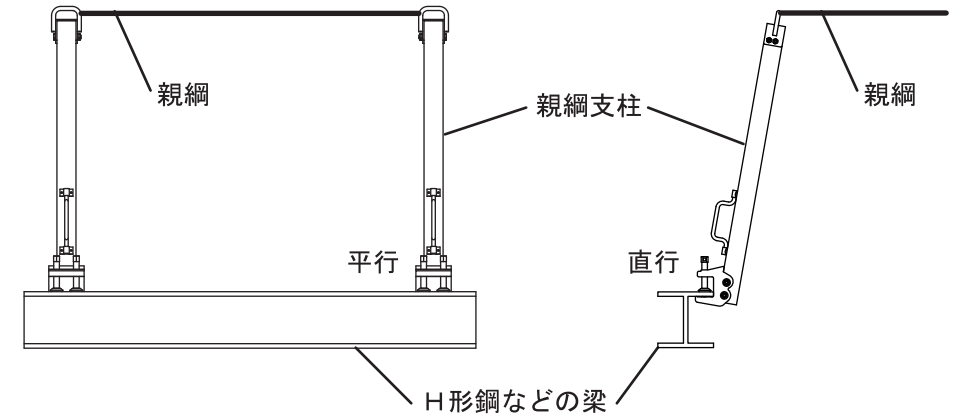


スチフナやガゼットプレート

※ スチフナやガゼットプレートがない箇所で取付けたり、16mm 以下の板厚だったりすると、取付部の変形により、落下距離が増加したり、親綱支柱が脱落する可能性があります。

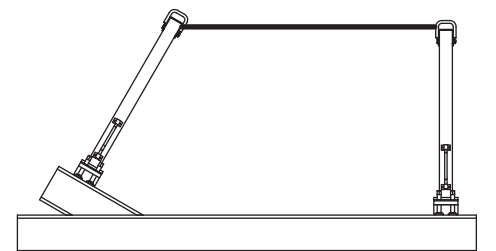
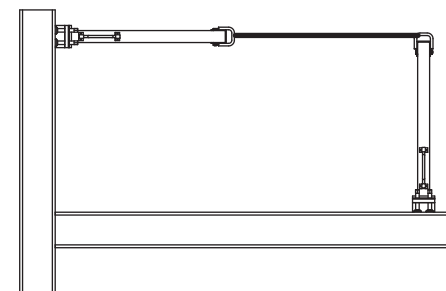
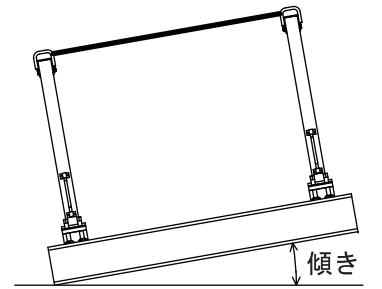
### ● 取付角度・向き

下図のように、親綱が水平になるように取付けて、使用してください。



#### ⚠ 危険

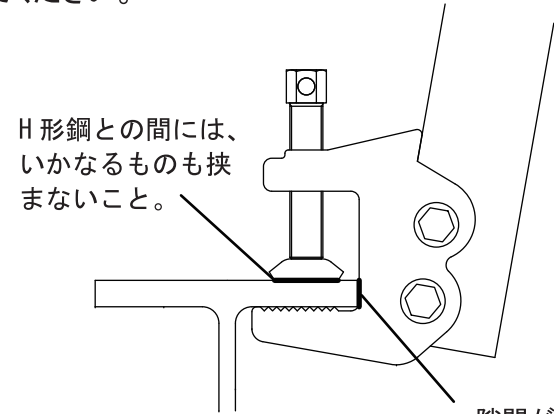
右図の例のように、H 形鋼などの梁が傾いていたり、下図の例のように同じラインにない箇所には取付けないでください。落下事故時に建物に接触したり、親綱が抜け落ちるなどして危険です。



# 使用方法

## ● 取付方法

H形鋼との隙間がないように、取付具をしっかり奥まで差し込み、固定ボルトを **6kN・cm** のトルクで締め付けてください。



### ⚠ 危険

隙間が無いように、奥まで差し込む。



固定ボルトは必ず、直接H形鋼に固定してください。H形鋼と固定ボルトの間には、いかなるものも挟まないでください。転落事故時に、親綱支柱が滑って脱落する恐れがあります。

## ● 親綱

親綱には、仮設工業会認定品の合成繊維ロープを使用し、たるまない程度（約 0.3kN）で引っ張ってください。



ワイヤーロープは、使用しないでください。衝撃吸収力が合成繊維ロープよりも小さいので、転落事故時の衝撃が大きくなります。



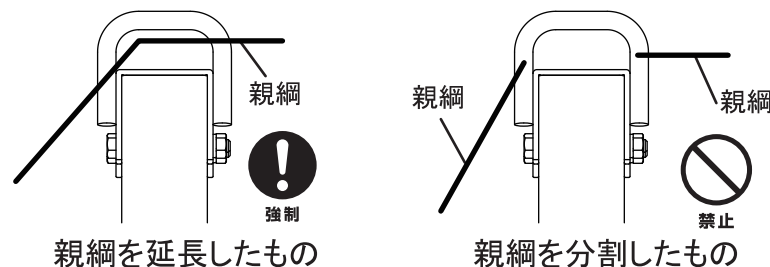
合成繊維ロープを張る際は、仮設工業会認定品の緊張器を使用してください。

## ● 墜落制止用器具

墜落制止用器具は、安全性の確認されたものを用いて、ランヤードの長さを 1.7m 以内にして使用してください。

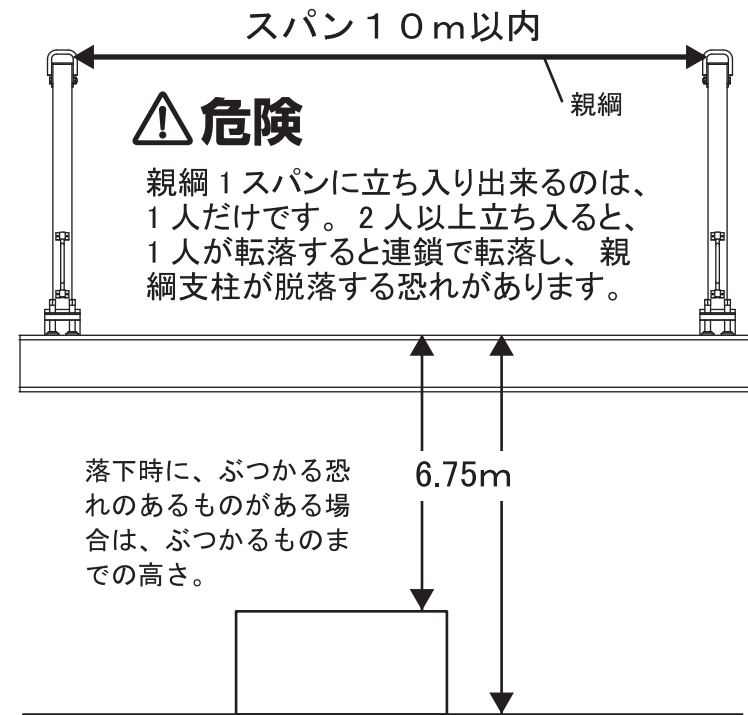
## ● 控え綱

控え綱を使用する際は、親綱を延長したものを控え綱としてください。



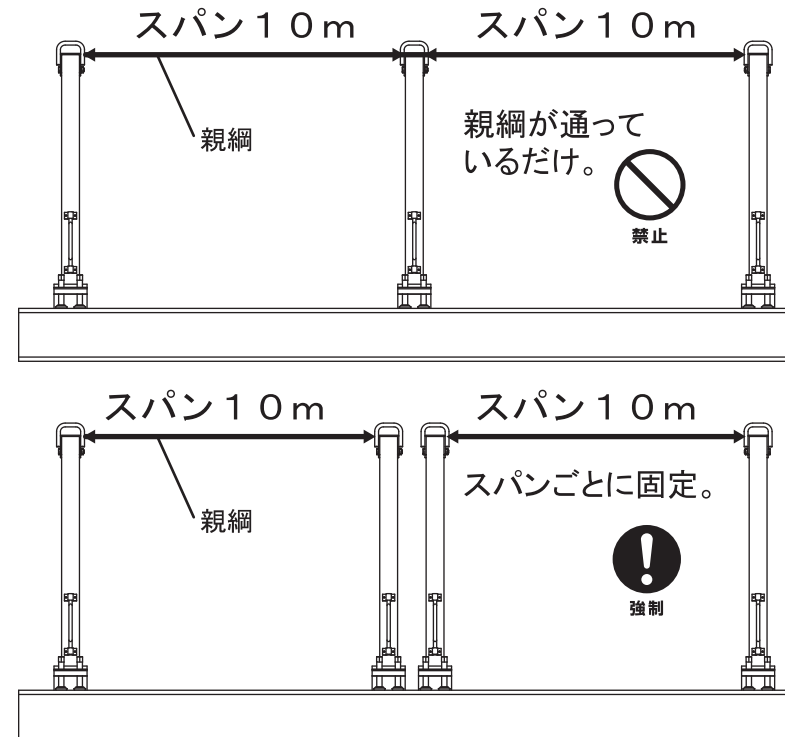
## ● 取付スパン・高さ

取付スパンは、**10m**以内で使用してください。また、最大落下距離 **6.75m**（親綱支柱のスパンが 10m で、支柱用親綱が認定品の合成繊維ロープを用いた場合の値）を確保して使用してください。



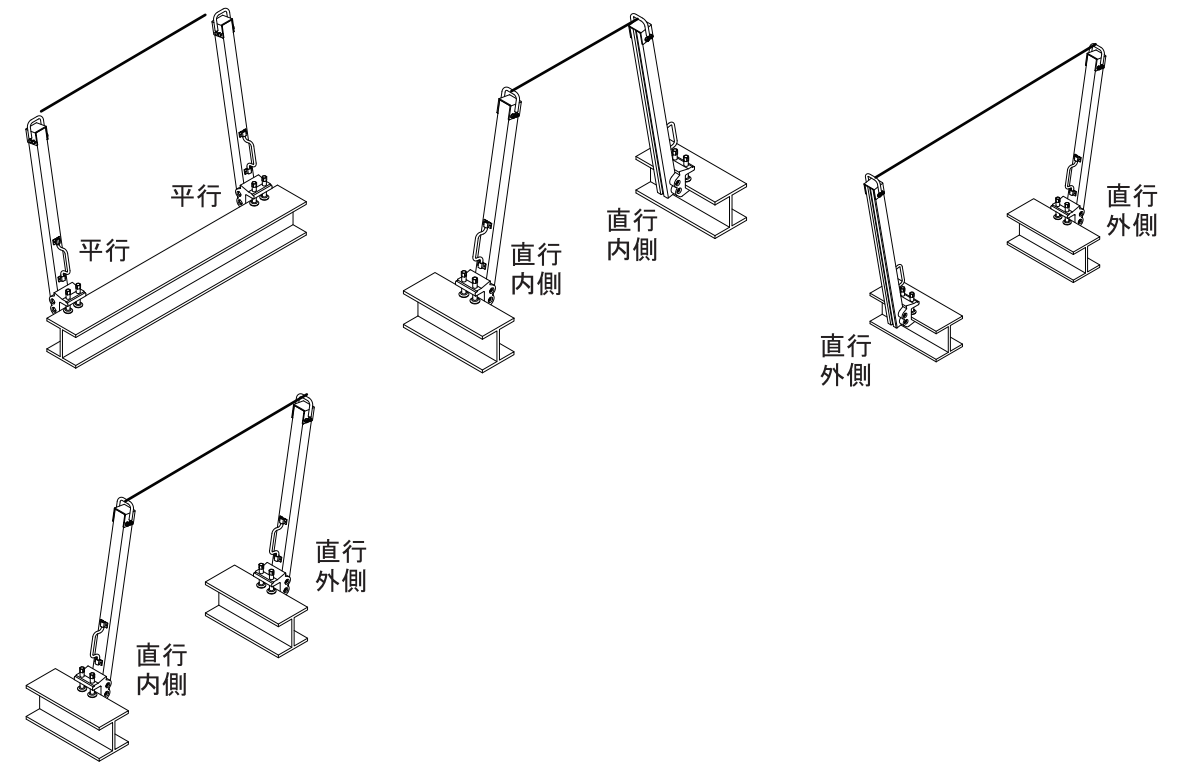
### ⚠ 危険

親綱支柱を直線状に連続して配置する際、親綱は通すだけでなく、スパンごとに固定してください。

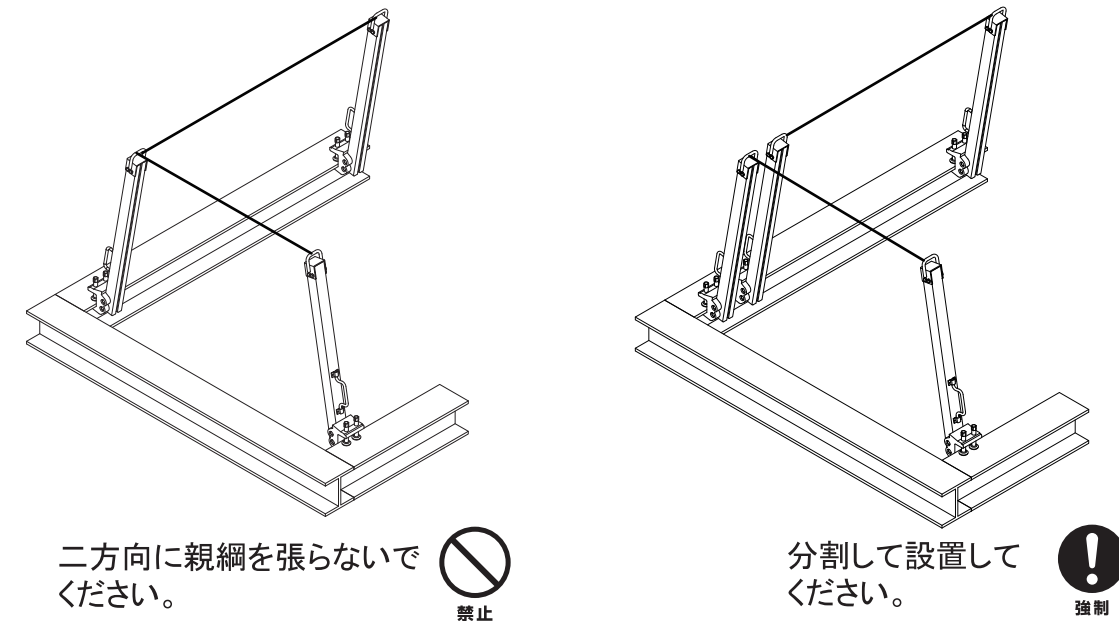


## ● 取付例

本製品は兼用型親綱支柱のため、下図の組み合わせで設置可能です。



## ● コーナー部の取付



ピカ コーポレイション 〒577-0013 大阪府東大阪市長田中4-4-10

ナビダイヤル 0570-064065 (土日・祝祭日を除く9:00~17:00まで)

■ホームページアドレス <https://www.pica-corp.jp>

※この取扱説明書の無断転用を禁じます。